



▲災害現場を視察する国土交通副大臣  
＝焼石、中原小学校



▲陥没した道路の応急復旧後  
＝久野川、市道中原西3号線



▲家屋に残った土砂や家具を撤去する  
住民ら＝金山地内



▲水道の復旧に向けて作業する工事  
事業者＝馬瀬西村

# 復興へ 向けて



▲応急復旧後の五の池小屋  
＝小坂町落合



▲土砂崩れにより塞がれた道路の応急  
復旧後＝夏焼、県道下呂白川線



▲災害ごみを仮置きする金山グラウン  
ドの様子（撮影者：丸川勝彦氏）



▲災害ごみの撤去作業をするボラン  
ティアの皆さん＝金山地内

なお、災害ボラン  
ティアセンターは、7  
月28日をもって閉鎖し  
ています。

猛暑の中、支援活動  
はとても大変でありま  
したが、皆さまのご支  
援により被災されまし  
た多くの市民の人の助  
けとなりましたこと心  
から感謝申し上げます。

下呂市内で発生した  
豪雨災害に対し、7月  
12日から災害ボラン  
ティアセンターを開設  
しました。  
市内だけでなく県外  
も含めて、延べ683  
人を超える皆さまにご  
支援を賜り、厚くお礼  
申し上げます。

災害ボランティア  
センターについて

ご支援いただき  
ありがとうございます。  
ございます。

# 市民の皆さんへメッセージ

## 自然災害の怖さ

改めましてこの度の豪雨災害により被害に遭われました皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。当市においては幸いにも人的被害はありませんでしたが、河川の氾濫、道路の崩壊や土砂崩れにより、甚大な被害を受け、いまだにご自宅を離れて生活されている人もいらっしやいます。改めて大自然の脅威には人が太刀打ちできるようなものではないと感じました。



下呂市長 服部 秀洋

私も常々防災意識を忘れぬようにとあいさつの中で述べさせていただきますが、いざというときの心構えも必要であると思えます。

このところ、数十年に一度という言葉が聞かない年はありません。まさにこの度の豪雨は、下呂市に降りかかった歴史的な大災害で

した。

全国市長会で大災害に遭われた首長による被災地から送るメッセージ「災害時にトップがなすべきこと」という講演を聞きました。

まず重要なのは、初動の遅れは決定的であり、判断を早くすること。命を守ることを最優先し、避難勧告などをちゅうちょしてはならない。しかし人は逃げないものであることを知ってお

くこと。また大災害の時にできることは行政にも限界があり、そのことをしっかりと住民に伝え、自らの命は自らで守る覚悟を求めておくこと。そして国や県の機関、近隣自治体に応援要請すること。そのためには普段から遠慮なく言える関係を築くことが大切であるとも言われました。

まさに今回の豪雨では、避難準備情報どころかそれを飛び越えて避難指示を出しました。しかもそれは真夜中のことでした。

時間60ミリを超えるすさまじい雨の中を避難所までどうやって向かうのか？その途中で被害に遭われる可能性も非常に大きい。

そこで家屋の階上への垂直避難、もしくは斜面から離れた部屋への移動も含めた指示をしました。あと1時間降り続いていたら…おそらく飛騨川や馬瀬川も氾濫し、どれだけの被害になったか想像もつきません。限界でした。

### 下呂市豪雨災害 義援金について

平成30年6月28日からの豪雨により、被災された人を支援するため、義援金を受け付けています。すでにたくさんのご支援をいただいています。ありがとうございます。

引き続き受け付けていますので、皆さまの温かいご支援をお願いします。

#### 【受付期間】

平成30年9月30日まで  
※土日・祝日・夜間を除く

#### 【受付場所】

下呂庁舎、星雲会館、  
各振興事務所

皆さまからの義援金は、下呂市内で被災された人の生活支援や再建のために被災の程度に応じて、直接お届けします。

#### 【問合せ先】

社会福祉課  
0552-33936